

塾講師模擬授業診断項目表

2026. 2. 13 Ver. 1

以下の表は大手の学習塾で、講師の育成を担当している専門家(インストラクショナル・コーチ)が使用する模擬授業の診断項目です。模擬授業の映像とトランスクリプションした音声から、次の診断項目と評価基準に従って評価を行なってください。

診断項目は15項目あり、それぞれ3段階で評価します。

<注意>

- ④から⑥については、映像分析から、それぞれの場面の合計時間を算出してください。
- 授業の内容や形式によっては、必ずしもすべての診断項目を診断する必要はありません。映像と音声から明確に判断できる項目のみについて、診断と評価を行なってください。

診断項目 (大項目)	診断項目 (詳細)	評価 3	評価 2	評価 1
1. 講師の立ち位置や姿勢	① 黒板やホワイトボードの前での立ち位置	説明しやすく、生徒全体が見える位置に立っている	大きな問題は無いが、やや端に寄るなど偏りがある	黒板を隠す位置に立つ/生徒が見えない位置に立つ
	② 身体の姿勢	常に自然で安定した姿勢を保っている	時々崩れるが、授業への影響は小さい	足組み・腕組み・寄りかかりなど不適切な姿勢が目立つ
	③ 顔の向き	基本的に生徒の方を向いて話している	板書を見ながら話す時間がやや長い	背中を向けたまま話すことが多い
2. 時間管理 (映像測定項目)	④ 板書に使っている時間	全体の 30~50% 程度で適切	20%未満または 60%前後でやや偏りあり	ほとんど板書のみ/逆に板書が極端に少ない
	⑤ 生徒に向かって話している時間	全体の 40%以上 を確保	20~40%程度	20%未満で、生徒と向き合う時間が少ない
	⑥ 机間指導の時間	適切なタイミングで机間指導が	机間指導が短い/やや長い	机間指導がない、またはほぼ

		ある（全体の 10～30%）	施はしている	ない
3. 話し方	⑦ 話す速度	聞き取りやすく、適切な速度	やや速い／やや遅いが理解は可能	明らかに速すぎる／遅すぎて不自然
	⑧ 聞き取りやすさ	語尾まで明瞭で聞き取りやすい	一部聞き取りにくい箇所がある	声が小さい／不明瞭で聞き取りにくい
	⑨ フィラー語（「あー」「えーと」「そのー」「なんか」など）の頻度	ほとんど出ない（気にならない）	時々出るが授業の妨げにはならない	頻繁に出て気になるレベル
	⑩ ポーズ（間）	適度に間を取り、反応確認ができています	間が少ないが一応確認はしている	ほぼ一方的に話し続けている
	⑪ 口調の適切さ	丁寧で安心感のある口調	やや強めな表現があるが問題は小さい	上から目線・威圧的な口調が目立つ
4. 話の内容	⑫ 問いかけ	適切なタイミングで複数回行っている	問いかけはあるが少なめ／形式的	ほとんど問いかけがない
	⑬ 褒め言葉	自然な形で頻繁に使っている	回数は少ないが使っている	ほとんど褒めていない
	⑭ 叱る場面での対応	必要な場面で冷静に適切に注意できる	注意はするがやや曖昧／強すぎる	注意すべき場面で注意できない／感情的
	⑮ 新出事項の説明	手順を追って丁寧に説明できている	大筋は理解できるがやや飛躍あり	説明が不十分で理解が難しい